

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

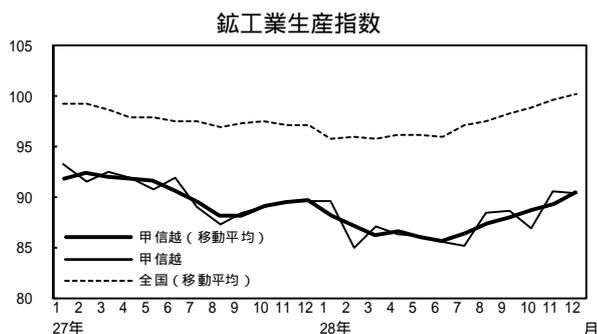
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 28 年 11 月)	今回 (平成 29 年 2 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10～12月期には、電子デバ、電気・情報通信は、自動車関連が引き続き堅調なことなどから増加した。汎・生産・業務用機械は、工作機械の生産が堅調なことなどから増加した。石油・石炭製品、化学、プラ製品は増加した。鉄鋼業、非鉄金属、金属製品も増加した。輸送機械は、自動車部品の需要が堅調で増加した。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
 2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。
 直近月は2か月平均。
 3. 甲信越は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

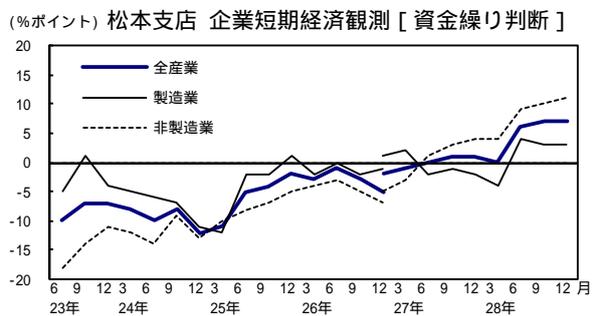
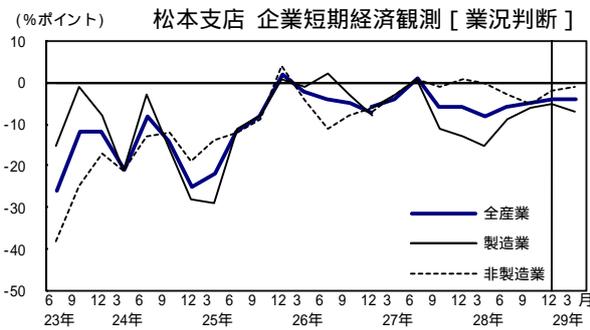
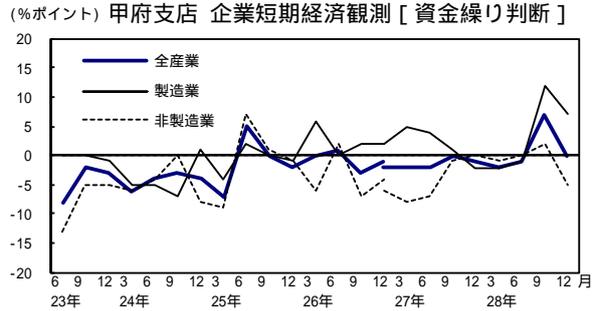
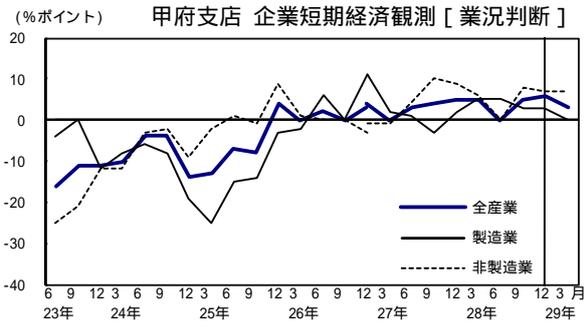
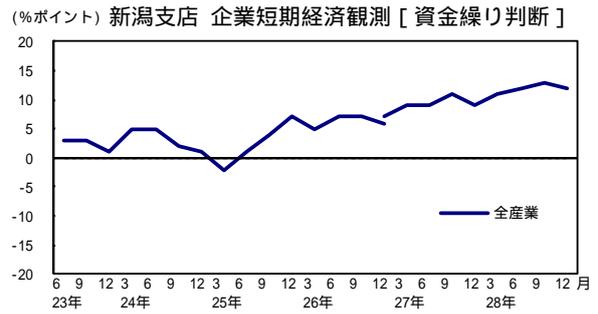
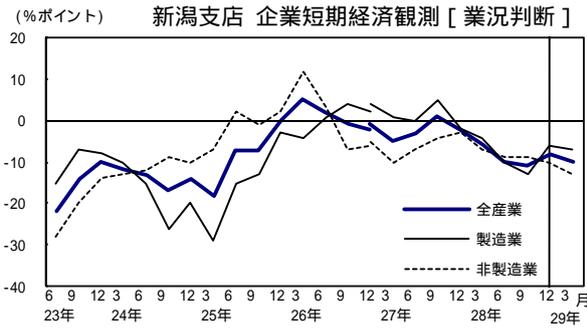
	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
電子デバ、電気・情報通信	42.8	3.5	1.5	2.9	3.0	3.0
汎・生産・業務用機械	17.9	1.4	4.8	2.7	8.8	6.1
石油・石炭製品、化学、プラ製品	10.5	1.7	1.9	0.8	1.0	4.9
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.6	0.1	1.1	0.8	3.7	1.7
輸送機械	7.1	0.2	3.6	6.3	11.4	2.1
鉱工業	100.0	1.7	2.1	2.0	4.3	0.3

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 10～12月期、12月は速報値。

- (2) 新潟支店の企業動向の業況判断は「悪い」、超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
 甲府支店の企業動向の業況判断は「良い」、超幅が横ばいで、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。
 松本支店の企業動向の業況判断は「悪い」、超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

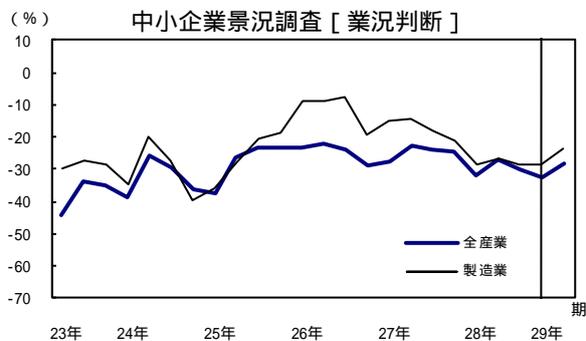
(5) 甲信越

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

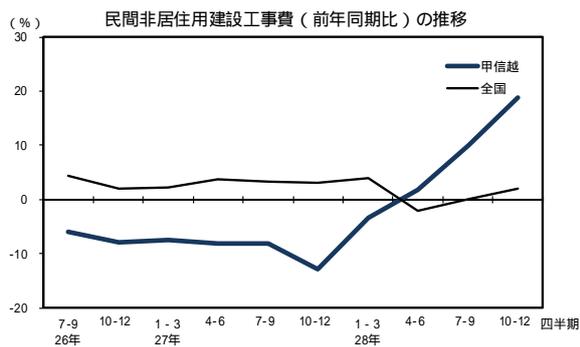


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「地元企業の景況感調査によると、製造業は大きく改善しており、円安に伴う業績好転が多い。一方、非製造業は大河ドラマの観光需要効果の減少などにより、例年並みの水準まで落ち込んだほか個人消費の弱さが続き、全体ではやや改善程度にとどまっている(金融業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度推測
全産業		
新潟支店	8.4	9.2(0.6)
甲府支店	3.0	17.3(15.5)
松本支店	1.5	6.6(3.3)
製造業		
新潟支店	11.4	28.3(1.6)
甲府支店	13.3	33.2(11.5)
松本支店	2.9	5.8(6.4)
非製造業		
新潟支店	5.8	6.5(3.0)
甲府支店	14.6	3.2(23.5)
松本支店	19.3	11.0(15.9)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数(RDEI(消費))

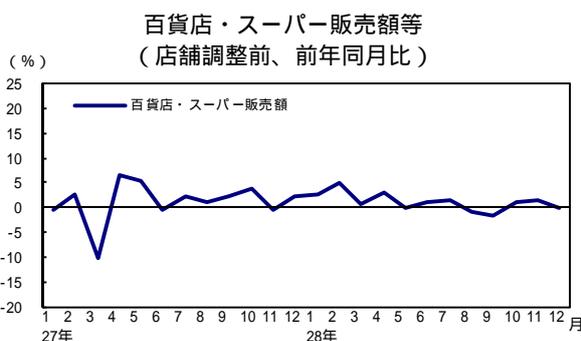
10月は前月比0.9%増、11月は同0.0%減、12月は同0.6%減となった。

百貨店・スーパー販売額

10月及び11月は、衣料品、身の回り品、家庭用品は前年を下回ったが、飲食料品が前年を上回ったため、全体として前年を上回った。12月は、飲食料品が前年を上回ったものの、冬物商材の動きが鈍く、衣料品、身の回り品などが振るわなかったため、全体として前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「広告掲載価格が低価格志向になっている。客の財布のひもは固い(スーパー)」などの回答がみられた。



	28年10-12月	28年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	0.2	0.9	0.0	0.6
百貨店・スーパー(*2)	0.8	1.3	1.6	0.3
乗用車(*3)	2.6	0.4	4.4	3.6
(季節調整値)(*3)	3.5	3.2	0.4	1.4

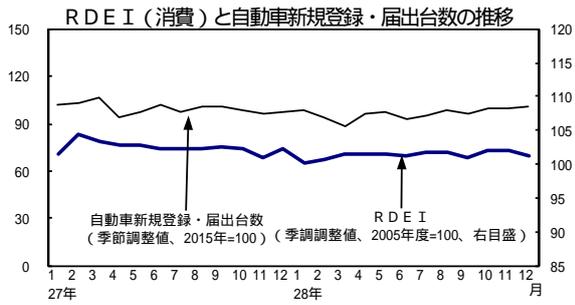
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

店舗調整前、前年同期(月)比(%)

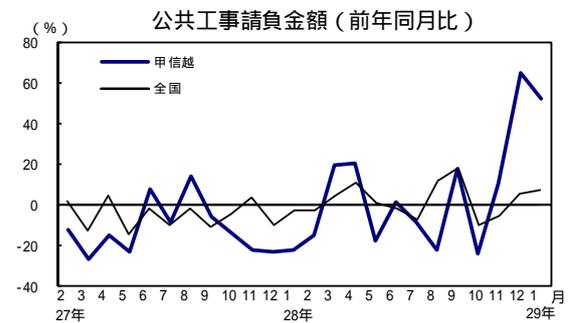
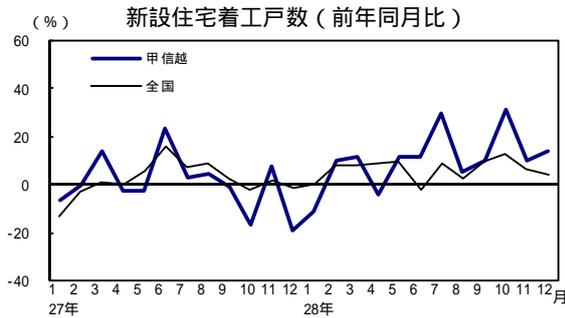
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

(5) 甲信越



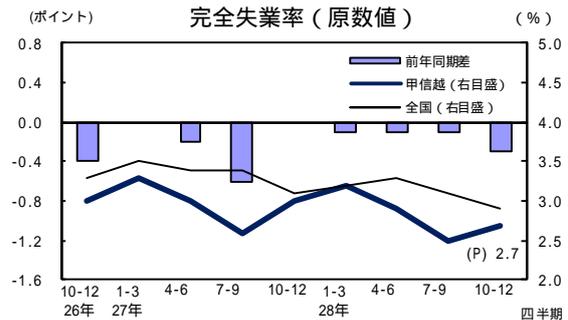
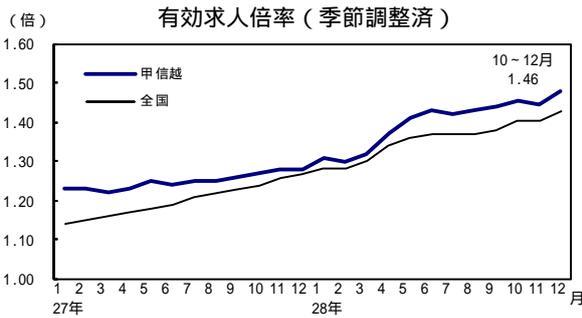
(2) 住宅建設は大幅に増加している。
持家、貸家が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 1. 甲信越は内閣府にて算出。
2. 10-12月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

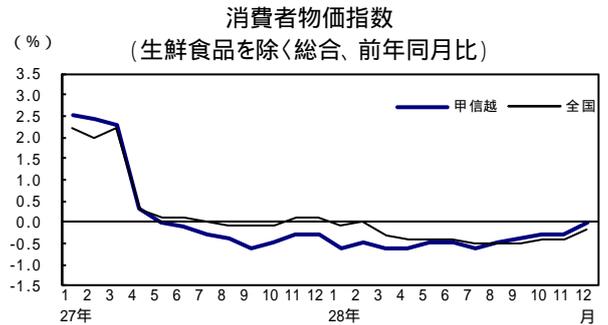
「求人の増加が目立つものの、正社員求人に変化はない(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	29年1月
倒産件数	69	53	49	54	14
(前年比)	19.0	13.1	2.0	10.0	36.4
負債総額	159	88	341	88	18
(前年比)	2.1	52.6	56.3	56.0	27.8



景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・夜のアルコールを伴う動きが非常に悪い。また、店の近くに競合店の出店もある。フランチャイズの飲食店の影響がじわじわと出てきており、飲食の形態が変わってきている(一般レストラン)。

<先行き>

- ・新入学や新社会人生活に向けて、新たに生活用品を準備することは少なくなり、備え付けの住居を選択するケースが多い。売上に季節感もなくなり、厳しい状況は続いている(一般小売店[家電])。

